

【演題】ネットワークを介した 24 時間温度・湿度遠隔監視システムの導入について

【演者】

山本第三病院薬剤部 行本拓史

【目的】

医薬品は個々に貯法が定められており、貯法の遵守は医薬品の品質を確保するために最低限必要なものである。当院ではこれまで調剤室の温度・湿度、保冷库の温度を1日2回手作業で記録してきたが、記録忘れが時折発生し、また薬剤師不在時の温度・湿度について把握していなかった。そこで今回、ネットワークを介した温度・湿度遠隔監視システムを導入したので報告する。

【方法】

(株)オブジェクトの「温度・湿度遠隔管理システム」を導入した。調剤室内に温度・湿度センサー1台、2台の保冷库に温度センサーを各1台設置した。

【結果・考察】

本システムは設定した時間毎に温度・湿度を記録し、外部サーバに保存しているため、手作業で記録する必要がなくなった。また、PC やスマートフォンで現在の状況や過去の記録(1年間)をリアルタイムに参照することも可能となった。

さらに、温度・湿度が設定した範囲を超えると指定したメールアドレスに通知が来るため、薬剤師不在時でもすぐに対応可能となった。また本システムを導入したことで、開き戸の保冷库で扉が確実に閉められていない状況下でも保冷库自体のエラー音が発生しないことがあるということが発覚し、薬剤師不在時は保冷库を施錠する体制に変更することとなった。

今回は、薬剤部内のみ導入であったが、医薬品の在庫場所は病棟・手術室等多岐に渡っている。今後は導入範囲を広げ、医薬品の品質確保に寄与していきたい。